

# 株式会社ジャストオートリーシング

## RPGベースのWeb開発ツールで 自動車リース情報提供サイトを再構築

- POINT**
- Javaによるメンテナンス性の悪さがネックで再構築へ
  - RPGベースで開発可能な「JACI400」を採用
  - 社内人員で柔軟に追加開発へ対応

**COMPANY PROFILE**

設立：1973年  
本社：神奈川県横浜市  
資本金：3億6270万円  
売上高：67億1200万円(2009年3月期)  
従業員数：107名  
<http://www.justauto.co.jp/>

### Javaで開発したJ-lineに メンテナンスの問題が浮上

1973年設立のジャストオートリーシングの事業は、もともと自動車整備からスタートしている。現在、神奈川県内有数の最新鋭設備を有し、国内外メーカー各社の車種を問わず、年間4000台を超える車検整備を実施する。

一方、強力な自社整備体制を強みに、新たな中核業務として成長させてきたのがオートリース事業であり、車両保有に関する多様なサービスをパッケージ化したフルメンテナンスリースを提供する。顧客先での迅速な整備を

可能にする巡回メンテナンスサービス、そして地場に密着したきめ細かなサービス体制を展開し、神奈川県および東京都南西部を中心に事業を大きく拡大。現時点でリース車両は1万1000台を超えるまでになった。

そのオートリース事業で重要な役割を果たすのが、自動車リース情報提供サイト「J-line」である。これはリース契約から車両情報、整備状況などフルメンテナンスリースに関するあらゆる情報を、顧客がWebサイト上で参照するためのサイトである。

オートリース事業ではこうした情報サイトが不可欠なサービスとなっており、メニュー内容や利用率がオートリース各社の競争力の源泉ともなっている。

同社はシステム/38時代からオートリース業務にかかわる基幹システムをSystem i上で運用してきた。現在は、1988～90年にかけて再構築した基幹業務システム「JUSTEM」を、2002年2月にリプレースしたiSeries 820上で運用中である。一方のJ-lineは、PCサーバー上でWebSphere Application Server (WAS) をベースにJavaで構築。Windows NT 4.0上にDB2を組み合わせるデータベースサーバーを構成し、基幹側のDB2/400からデータを転送していた。Javaでの

開発は全面的に外部に委託している。

この構成で2001年3月にスタートしたJ-lineであるが、実は当初からメンテナンス上の問題が浮上していた。システム課には現在、5名のシステム要員がおり、そのうち開発に携わるのは4名。全員がRPGを使用し、Javaの経験はない。そのため、顧客の要望に応じてきめ細かく機能追加したくても、社内人員では対応できないので、その都度、外部へ委託することになる。「外注コストが発生し、工数も必要のため、あまり頻繁には対応できません。そのメニュー内容が競争力を左右するまでいわれる情報サイトの運用体制としては、必ずしも理想的とはいえない状況でした」と語るのは、当時のシステム課でJ-lineプロジェクトリーダーを務めた中野敦夫氏(現・リース営業部 営業課 課長)である。

社内でJavaを学習することも検討されたが、RPGスキルとの違いが大きく、また日々の開発業務が山積している状況もあって、なかなか実現しなかったという。さらにWindows NT 4.0をバージョンアップする段になって、WASのバージョンが上がり、Javaアプリケーションをすべて作り直さねばならないことが判明した。

「何の機能追加もなく、今まで使って



**中野 敦夫**氏  
リース営業部  
営業課 課長



**佐々木 仁志**氏  
営業企画部  
システム課

いたJ-lineの内容をそのままJavaで組み直すだけなのに、高額な外注委託コストが必要だと分かりました。OSのバージョンがどれほど変わっても、プログラム資産の継承は当たり前であるiSeriesを長年使ってきたので、これには疑問を感じずにはられませんでした」(中野氏)

こうした経緯を経て、同社ではJavaを使用せずにJ-lineを再構築することを決定したのである。

## RPGベースで開発可能な「JACi400」を採用

同社がJ-line再構築のツールに求めた要件は、開発生産性およびメンテナンス性の高さであった。

「RPGを主力言語とする現在のシステム要員が、専任を設けずに対応可能であることが条件でした。専任担当者の異動や退社によって対応不能になる事態を避けるため、システム要員全員が利用できるツールを探しました。自然

と、RPGをベースにWeb開発が可能なツールを集中的に調べることになりました」(中野氏)

製品選定の開始は2007年6月。実はそれ以前から、5250画面のWeb化を目的にツールを探していたのだが、その過程でトッパンM&Iが提案した「JACi400」(ミガロ)に注目した。

「RPGを使用してWebアプリケーションを開発するJACi400であれば、社内でのメンテナンスが可能。DB2/400をデータベースとして使用できますし、既存の5250画面のWeb化にも、新規のWebアプリケーションにも対応可能でした」と語るのは、営業企画部システム課の佐々木仁志氏である。

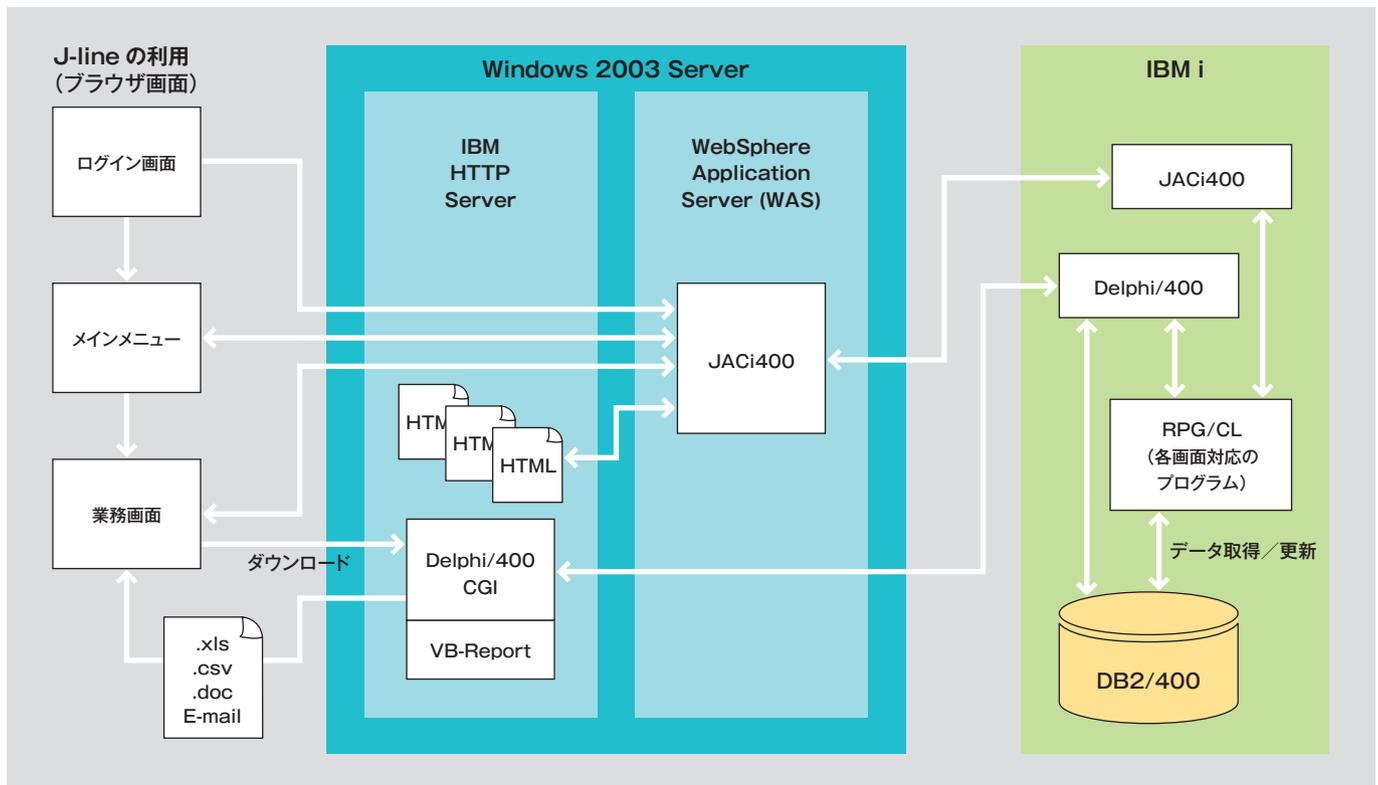
プロジェクトのスタートは2008年7月。開発はミガロに全面委託した。CSVやExcelなどへのダウンロードや帳票出力などの機能の一部、Delphi/400を使用。画面デザインを一新し、以前のJ-lineにきめ細かく機能追加した新しいJ-lineが本稼働したのは

2009年3月である。

「本稼働後に、照会画面の追加といった細かな開発が発生したのですが、それは社内の人員で対応しました。JACi400の基本操作を覚え、あとはHTMLを学習するだけで作成できたので、メンテナンス性は非常に高いと実感しました」(佐々木氏)

またJACi400ではQueryとWRKACT JOBだけで、ログイン/ログアウト時間を含めた顧客のアクセス状況が簡単に把握できるので、管理面の強化も図られたようだ。

同社ではJ-lineによる顧客満足度を高めるため、今後は同社のリースかどうかによらず顧客の全所有社情報を参照できる機能の追加や、車載情報システムと連携して走行情報などを管理するテレマティクスの実現などを予定している。メンテナンス性の高い新たなツールを得て再構築されたJ-lineは、迅速かつ柔軟な対応が可能となることで、オートリース事業の競争力を大きく高める存在になりそうだ。 ①



図表 J-lineのシステム概要